

板野町 人口ビジョン・総合戦略(概要版)

いたの再興《最高》新南海道戦略

人口ビジョン

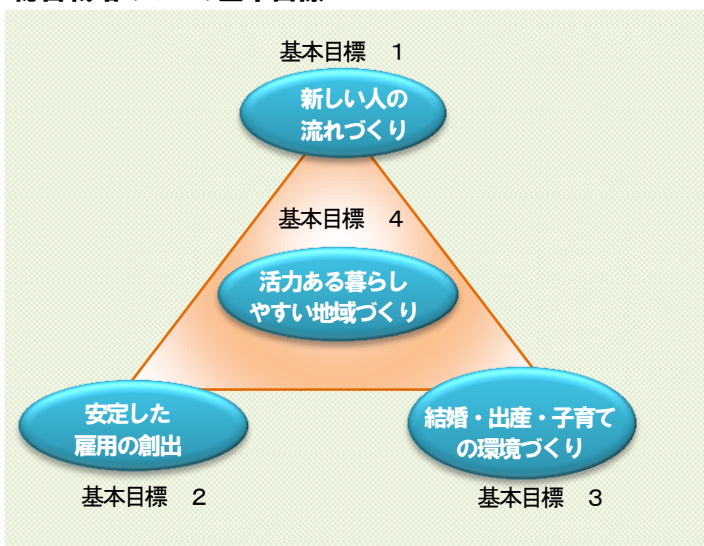
現状分析

- ◆2000年をピークにその後減少傾向
現在は「約 13,800 人」
- ◆合計特殊出生率
2014 年(概数)「0.94」
徳島県「1.46」より低い
2060 年 推計「約 6,700 人」

将来展望

- 【自然動態】合計特殊出生率の上昇
2055 年:2.07 へ
- 【社会動態】転出超過を解消
2025 年以降転入超過
★2060 年
「10,000 人超」を確保

総合戦略の4つの基本目標



基本目標1 新しい人の流れづくり

目標: 2020 年までに、社会増 2015 年比 50%増、
2025 年以降転入超過

- 1 観光・交流の拡大
- 2 U J I *1 ターンの促進

基本目標2 安定した雇用の創出

目標: 総合戦略による雇用創出数
5 年間で 100 人

- 1 基幹産業の農業就業環境の充実
- 2 産業連携による付加価値の増強と雇用力の強化
- 3 新たな雇用の場づくり

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

目標: 2020 年までに合計特殊出生率*2 1.35
2025 年までに 1.50

- 1 出生率の向上
- 2 子育てに対する切れ目ない支援による若者世帯の定住促進
- 3 若者人口の定住・増加対策

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり

目標: 消費喚起拡充による町内の商店経済流通
20%増

- 1 誰もが暮らしやすい環境づくり
- 2 地域マネジメント体制づくり

*1 : U ターンは出身地に戻る形態、J ターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態、I ターンは出身地以外の地方へ移住する形態を指す。

*2 : 1 人の女性が生涯に何人の子供を産むかを表す数値。15～49 歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。

人 口 ビ ジ ョ ン

1. 人口の現状分析

●人口減少期に入っている

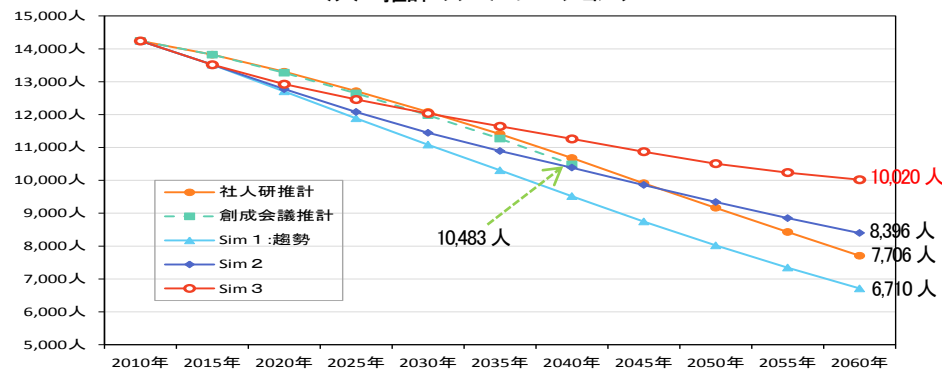
- ・平成 12 年（2000 年）をピークにその後は減少
- ・平成 22 年（2010 年）は約 14,200 人、現在は約 13,800 人。
- ・高齢化率は年々高まり平成 26 年（2014 年）で 28.3%
- ・合計特殊出生率は平成 25 年（2013 年）で 0.96 と県平均（1.42）と比べても低い

●このまま推移すれば

- ・2060 年には 6,700 人程度にまで減少
- ・人口減少は社会保障制度の維持や、持続的な地域経営維持の面から問題となる



＜人口推計のシミュレーション＞



2. 人口の将来展望

①目指すべき将来の方向

(ア) 田園都市としての定住性を強化する

農地や山林の等の緑の環境に包まれ、県都との近接性、交通の利便性等を活かした“住のまち”としての環境整備を目指す。

(イ) 新たな雇用と交流による活力を創造する

基幹産業である農業の強化とともに新たなビジネスの創出や観光・交流も含めた六次産業化を図り、まちの活力の増強を目指す。

(ウ) 若者世代が住みよいまちをつくる

結婚・出産・子育ての支援体制が充実し、若い人たちが、夢や希望を持って暮し、働くことができるまちづくりを目指す。

(エ) 人口減少抑制に向けた地域ぐるみ体制を創る

住民も含めた官民協働による取り組み体制を構築し、それぞれの役割分担のもと、実効性ある取り組みを目指す。

②人口の将来展望

出生率を高め、転出入の均衡、さらには転入超とすることを目指し

2060 年に 10,000 人程度を確保する。

●自然動態：合計特殊出生率の上昇 2055 年：2.07 へ

●社会動態：転出超過を解消 2025 年以降転入超過

社人研推計：国立社会保障・人口問題研究所に準拠（以下：社人研）

創生会議推計：日本創生会議推計に準拠（推計は 2040 年まで）

Sim 1：社人研の予測値の 2015 年値を修正（これを趨勢人口と位置付け）

Sim 2：Sim 1 をベースに合計特殊出生率は 2040 年に 1.92、その後は維持、移動は 2040 年に均衡、その後転入増

Sim 3：町独自推計で、Sim 1 をベースに合計特殊出生率は 2055 年に 2.07、その後は維持、移動は 2025 年に均衡、その後転入増

【2060 年の合計特殊出生率：1.16 移動：+ 11 人】

【2040 年の合計特殊出生率：1.16 移動：— 28 人】

【2060 年の合計特殊出生率：1.16 移動：+ 9 人】

【2060 年の合計特殊出生率：1.92 移動：+ 60 人】

【2060 年の合計特殊出生率：2.07 移動：+335 人】

総合戦略の重点的な推進テーマ

総合戦略にあたって、特に次の施策を重点テーマとして推進していきます。

★ 「徳島版地方創生特区」への取組（新南海道再興戦略特区）

- ① 水素ステーションなど未来志向型「道の駅」の整備
- ② 「光の道」と「歴史」が融合した「サテライトオフィス」等の誘致促進

★子育て支援の充実

これらの重点テーマに関する「狙い」と「展開の考え方」は次のとおりです。

「徳島版地方創生特区第1号」認定を受けての取組

徳島ならではの地域資源を活用し、企業や地域住民など多様な主体との連携のもと、地域経済の活性化や雇用創出・移住の促進など、市町村が地域課題の解決や持続可能なまちづくりを実現するモデルとなる先導的な事業を、徳島県と連携し強力に取組むこととします。

① 未来志向型「道の駅」の整備

狙い

板野町が活性化していくプロセスには、「道」というスキームは重要であり、新しいコンセプトの「道の駅」を整備します。板野町の交通条件の利点や、大きな集客力を有している観光レクリエーション施設の立地、さらには今後の利用が見込まれる“お遍路さん”等の条件を活かします。

町の総合的な販売・PR、住民の安心拠点としての機能に加え、水素ステーションなどを整備し、未来の交通体系を先取りする『道の駅』を整備します。

展開の考え方	まずは、板野町の基幹産業である農業を強化し就農環境を充実するとともに、その生産物（素材）を活かした六次産業化を推進し“板野ブランド”づくりと、町内の産業の付加価値の拡大に努めます。その延長線上に、町の各種物産の販売・PR拠点、観光の各種情報発信します。 また、災害時の町民及び広域的な安心拠点としての機能も持たせます。そして、最先端技術を活用した水素ステーションなどを整備し、板野町から未来の交通体系のあり方の情報発信を併せ持った道の駅を整備します。	
---------------	--	--

② 「光の道」と「歴史」が融合したサテライトオフィス等の誘致促進

狙い	町内に張り巡らせている「光の道」（光ファイバー網）を活用し、板野町ならではの歴史と文化を活かし、サテライトオフィス等の積極的な誘致を図ることにより、新たな雇用やビジネスチャンスの創出を図ります。	
展開の考え方	徳島県のサテライトオフィス・プロモーションとの連携を図るとともに、板野町の優位性を積極的にPRし誘致活動に努めます。 一方、オフィスの場としては、例えば空き家や公的施設等の遊休施設・史跡指定施設を活用し、これらの情報発信も併せて図り、町の新たな活力源としていきます。	



子育て支援の充実

子育て支援施策が充実することにより、出生率・子育て世代の転入率の増加及び転出率の低下に繋がり、人口減少の抑制を図る。

③ 子育て支援の推進

狙い	次の時代の板野町を担うのは子どもたちです。子どもを育成するための支援環境を充実し、“子育てするなら板野町”と思われるまちづくりを推進し、それが若い世代の定住・流入となり、人口減少の抑制にも効果を持つこととなります。	
展開の考え方	出会い⇒結婚⇒出産⇒子育て（保育・教育を含め）という一連のライフステージに対し、切れ目のないトータルな支援体制の充実を推進します。 支援体制の中で、特に幼児教育無償化（子育て支援新制度に基づく、幼稚園・保育所等）を第1子から実施します。	

総 合 戦 略

基本目標1 新しい人の流れづくり

観光・交流の拡大による人の流れを促進し、UJIターン策による新たな定住の流れを創りだす。

「赤字」は重点施策・重点指標

1 観光・交流の拡大

- 観光魅力を強化し、交流の拡充を図ります。
 - 観光と他産業や他部門等との連携を強化します。
 - 道の駅の整備による拠点形成を図ります。
 - 交流を促すための情報基盤整備及び積極的な情報発信を講じます。
- 町内滞留人口：H31 20%増加（あせび温泉利用者数 H26 約16万人）
 - 板野町観光推進協議会発足：町内企業等2～5団体
 - 産業振興・観光・防災・地域福祉の総合拠点施設形成・構築
 - 町PR動画作成によるホームページアクセス数：20%増

2 UJIターンの促進

- UJIターンに関する情報発信機能を強化します。
 - 町出身者学生のUターン促進の対策を講じます。
 - 将来的なUJIターンに繋がる里帰りを促す対策を講じます。
 - 移住の受け入れ環境の整備を促進します。
- 「帰って来んでPR動画」ホームページ掲載
 - 新制度奨学金（緩和規制）の創設：定住率 60%（H26:2人、累計18人 定住率60%）
 - 「里帰り」孫世代夏季学級体験者：20人以上
 - 子育て世代（転入者対象）住宅整備：1戸建て概ね10戸以上（転入者概ね40人以上）



あせび温泉やすらぎの郷



四国霊場三番札所 金泉寺



あすたむらんど徳島

基本目標2 安定した雇用の創出

基幹産業である農業の就業環境の充実とともに、産業間連携や本町の立地条件を活かした新たなビジネスを興し、雇用力の強化を図る。

「赤字」は重点施策・重点指標

1 基幹産業の農業就業環境の充実

- 基幹産業である農業の力をさらに強化し、雇用力を増強します。
 - 農業後継者対策の充実を図ります。
 - 新たに農業に就きたい新規就農者の受け入れ体制を充実します。
- 農業法人化の推進（H26 8法人） 現況以上
 - 農業後継者数：70人（H31）（H26 60人）
 - 新規就農者数：10人（H31）（H26 3人）

2 産業連携による付加価値の増強と雇用力の強化

- 産業間連携による六次化産業への取り組みを強化します。
 - 地域ぐるみでの地産地消を推進します。
- 地元企業の特産品開発 2種類以上（ネット販売促進）
 - 商品開発企業連携数：2業者以上
 - 学校給食センター食材地元業者購入：町商工会加盟店（270）現状以上

3 新たな雇用の場づくり

- 新たな企業の誘致を進め、雇用の場づくりに努めます。
 - 板野町の立地条件を活用した、新たなビジネスの展開を図ります。
- サテライトオフィス・コールセンター等情報関連産業誘致：2社以上
 - 民間活力を利用した企業立地数：2社以上
 - ICTまちづくり推進事業協力機関：2社以上



農産物収穫風景(白瓜)



<ハンドクリーム「キャロリーヌ」>



六次化産業による開発
<にんじンドレッシング>



<つけもの侍:いたのすけ>



農産物収穫風景(蓮根)

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

子育て日本一を目指し、出会い・結婚・出産・子育てのトータルな支援体制を充実する。

「赤字」は重点施策・重点指標

1 出生率の向上

- 出会いの場づくりとしての婚活の支援を進めます。
- 安心して出産できる支援体制の充実に努めます。

- 30歳未満婚姻者数：10%（前年比）（H26 男24人 女22人）
- 出生数：10%上昇（前年比）

2 子育てに対する切れ目ない支援による若者世帯の定住促進

- 乳幼児から義務教育終了までの子育てに対する経済的支援を充実します。
- 就学前全額支援（第1子幼児教育無償化）を実施します。
《子育て支援新制度に基づく幼稚園・保育所等》
- 子育てに対する地域ぐるみでの支援体制づくりを充実します。
- 板野町ならではの特色ある教育環境の充実に努めます。

- 子育て世代転出率：20%減少、転入率：20%上昇
- 子育て世代転出率：20%減少、転入率：20%上昇 <再掲>
- 幼稚園預かり保育児童数：60人以上
- 新制度奨学金（緩和規制）の創設：定住率 60%（H26:2人、累計18人） <再掲>

3 若者人口の定住・増加対策

- 若者や子育て世代にとって住みやすく快適な住宅を整備します。

- 子育て世代（転入者対象）住宅整備：1戸建て概ね10戸以上（転入者概ね40人以上）
<再掲>



子育て支援・ボランティア



子育て支援・育児相談



徳島スポーツビレッジ

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり

住民みんなの支え合いや交流による暮らしやすい環境づくりと、地方創生にふさわしい住民参加の地域運営の仕組みを構築する。

「赤字」は重点施策・重点指標

1 誰もが暮らしやすい環境づくり

- 子どもからお年寄りまでの多世代が交流できる仕組みづくりを推進します。
 - 高齢者等・孫世代交流サロンの構築
- 町内での消費喚起のための対策を講じていきます。
 - 徳島型CCRC構築への参画：H28
 - プレミア商品券（プレミア率：20%継続）・高齢者（75歳以上）タクシー助成券：H27 阿波とくしま商品券波及効果を基準に検証
- 誰もが暮らしやすい環境をつくるための生活支援策をさらに充実します。
 - 各機関・くらしサポートセンターの連携体制の強化：相談窓口一本化

2 地域マネジメント体制づくり

- 元気高齢者の社会参加の促進としてシルバーパワーの活用を積極的に図ります。
 - 「(仮称) まちづくり協力隊」編成：H28
- 住民を主体とした、今後のまちづくりのための実行部隊の組織化を図ります。
 - 「(仮称) 板野町地方創生町民会議」設立：H28
 - 「(仮称) 板野ふるさと会」創設：H28



孫世代との交流



町PRマスコット『まめっちゃ』



住民交流「男性チャレンジ」